

二 朝鮮經濟史の資料斷片二

● ● ● 火 田 ● ● ●

火田とは朝鮮に於ける特有の名稱にして、山野の樹木を燒き拂ひ、其の跡地を極めて亂雑に耕鋤し、これに粟、麥、大豆、小豆、黍、玉蜀黍、稗、馬鈴薯、麻等を栽培する甚だ原始的の粗放的農耕法を指して云ふのであつて、恰もわが内地に於いて行はるゝところの燒畑、若くは切替畑に等しきものである。火田は又火粟田とも名づけ、最初は山峽の窮民が無主空山と稱する山地を起墾するために濫觴するのであるが、後には平地の遊民までが火田の耕作を爲すに至り、遂には無主空山にあらざる封山、禁山の如き政府禁養の森林をも侵耕するに至つたのである。現に國有林野内に生活せる火田民の數は極めて多數にして、之が爲に年々放火盜耕の害を受けつゝある面積は頗る廣大なものである。然しながら農耕の術開けず、農具の進歩せざる、未開野蠻の時代に於いて、斯かる耕作法の行はれたことは、何れの國土に於いても共通の現象に屬し、古く

より存した支那の火耕内地の畑、朝鮮の火田の文字は略ぼ其の由來を同うしたものである。

朝鮮に於ける火田は、平野及び沿海の部分を除き、凡そ山野の在る地には全土到る所に存し、市街地の管内にも往々之を見受ける。昔時の南韓地方にも火田耕作が熾んに行はれたのであるが、其の後人口の漸次増加し人民の定住するやうになつてから、火田の多くは畚又は田に變じ其の他の山野は或は燃料採取の目的を以て植樹され、或は濫耕の結果全く蓋廢に歸したのである。今日に於いては中部以西及び以北の山地帶、殊に蓋馬臺地を中心とする高地に於いて、最も熾んに火田耕作が行はれ、咸鏡南北道、平安南北道、江原道、及び黃海道地方は火田面積に於いても火田耕作者數に於いても甚だ多きを占めてゐるのである。

火田の存する所は、概して高峯峻坂にして交通の便惡しく、農作物の收穫少く、地味瘠薄なるを常として居るが、尙ほ且つ年々多くの火田耕作者が、次第に深山高地に分け入るのは、平地及び山麓の生活に比し、

耕地と燃料を容易に得らるゝ山上生活の方が、貧民に取りては遙かに幸福であるが爲めにして、是れ歴代嚴重なる禁令の存したるに拘らず、火田耕作の益々猖獗を極めた所以である。

續大典の定むる所に據ると、火田は隨起收税として原則上土地原簿に混入せしめず、二十五日耕を一結として課税する規定になつて居る。而して火田の税率は一結に付、京畿、忠清、全羅の三通は、太八斗、慶尙南道は木十足、黃海道は粟十五斗、江原道は太四斗にして、平安、咸鏡兩道は古來定税は存しなかつた。然しながら税制の紊亂せる李朝時代には、火田税を相當に搾取した形跡があり、従つて斯かる火田税の存在は間接に火田の奨励を爲したる如き結果を齎らしたのである。

火田の弊害は頗る激甚を極め、殊に山火に依りて森林を荒廢せしめ、延いて水原を枯渴し、洪水の慘禍を逞しゆうするなど、國家經濟上並に國土保安上實に忽かせにすべからざる大問題である。

此に於いてか、夙に火田の禁止取締に就いては、政府に於いて非常に苦心して居たものと見えて、孝宗四

年及び肅宗朝の備局の啓辭には、近來火田の害到らざる所なく、火耕の爲めに山林の荒廢を極めた實狀を述べ、山火及び斫伐の嚴禁を守令して居る。而して英朝二十一年には「山腹上を起耕することを禁じ、山腰以下は新に木を斫り田を作することを一切禁斷し」また經國大典には「松田に放火したる者は一律（死刑律）を以て論ず」また續大典には「嶺陲禁養の處の定標内に山腰を以て限りと爲すに冒耕放火したる者は松田冒耕放火の例に依り論ず」とあるを始め、其の外にも幾多の禁令を設けて居るが、實際に於いてはこれ等の法令は殆んど空文に終り、火田耕作者は益々増加し、以て今日に至つたのである。

朝鮮總督府調査資料第十五輯

「火田の現狀」より

● ● ● 契 ● ● ●

契の種類は極めて多く殆んど枚舉に遑あらず又同種の契にして其名稱を異にするものあり、然れども之を大別すれば組合の性質を有するもの、部落等の規約に過ぎざるもの及單純なる共在關係に屬するもの、三種

に外ならざるが如く、例へば洞契又里中契と稱し里洞内の各戸より或は平等に或は等級を定めて金穀を據集し、或は夫役を以て之に代ふることあり）其利息、又は元本を以て、或は戸税の上納に充て、或は橋梁道路等の修築を爲し、或は住民の救助に充つることあり。

（往時官吏の接待費に用ひたりと云ふ。）特に里洞長以外に契長を定むることなきに非ずと雖も其洞内に戸を有するものは其負擔を免るゝことを得ず、又當然、其利益を享受するに反し、其里洞を去りし者は其負擔を免るゝと同時に受益の資格を失ふを以て、之を部落の規約と視るを妥當とすべし。（洞契里中契の内容は區々なるも其性質を異にせざるが如し）又例へば數人共同には婚具を購入し契員中婚儀を行ふ者ある場合は之を使用し、又數人共同にて葬具を購入し契員中葬儀を行ふ者ある場合に之を使用する婚具及葬具の契の如き、或は數人にて農具、又は牛馬を購入し各自必要に應じ交互に之を使用する農具、又は牛馬の契の如きは單純なる共有關係に過ぎざること多く、故に茲には唯組合の性質を有する契のみに就き、其概要を記すに止むべし。

組合の性質を有する契には婚姻、又は葬式の費用の共助を目的とするものあり婚契、喪契、爲親契等は多く之に屬し、契員中家族が婚姻を爲し若くは父母の葬儀を爲す者あるときは、一定の金額、又は物を贈りて其費用を助く。而してこの種の契には事故發生の都度一定の金額を據集するものなきに非ずと雖も普通は基本金を積立て若は田畠を購入し、其收益を以て使途に充つるが如し。又祖先の祭祀を目的とするものあり宗契門契と稱するもの大抵之に屬し、此種の契にありては田畠を購入し、其收益を以て祖先祭祀の費用に充つるを通例とす。又宗教學藝等を目的とするものあり佛契、學契、射契の類は多く之に屬し、佛契には寺院の維持費を支辨するため基本財産を設くるものあり、學契には學校を設け子弟教育の機關と爲すものあり、或は學會を設け詩文の練習を爲すものあり、射契は舊時弓技の練磨を爲す者往々之を組織することありしが、今は全く有せず、又災厄の共濟を目的とするものあり忠清南道江景地方に行はるゝ募軍契は之に屬し、他の地方に於ける宗契門契中にも此種の目的を包含するものありと云ふ。即ち此種の契にありては契員中不時の

災厄に罹りたる者あるときは之に一定の金額、又は物品を贈り其急を救ふものとす。又營利を目的とするものあり概稱して殖利契、又は取利契と稱し金錢を積立て之を殖殖して利益の分配をなすものなるも傍ら婚具葬具等を購入して之を賃貸して其利益を分配するものありと云ふ。又殖林、若くは水利を目的とするものあり。殖林を目的とする契には毎年松、其他の樹木を栽植するものあり、或は山林の盜所を防ぐため看守者を置くものあり之を松契、又は禁松契と稱するもの多きも必ずしも松樹のみに關せざるなり。而して水利を目的とする契は通例蒙利契と稱し水田の所有者に於いて的を設ける場合は之を組織するを通例とす。此の他、尙ほ種類多きが如しと雖も今悉く之を擧ぐるに難し。而して契員の出資は均一なるを通例とするも營利を目的とする契に在りては持分つに數を分ち一人にして二口以上を有することあるを以て、此の如き場合には一口に付ての出資額は均一なるも契員各自の出資額には差異あり。又祖先の祭祀を目的とする契に在りても資産を標準として出資に差等を立つること無しとせず。殊に殖林水利等を目的とする契に在りては地所の面積を標準として出資額に差を設くるを通例とす。契員の持分に付ても平等なるを本則とし、唯營利を目的とする契は其に數に依りて差異あるものあり。契の財産は

契員の共有に屬し、其處分は契員協議の上之を爲し、過半数の意見に依りて之を決す。又契には契長有司、其他の役員あり。財産の管理、其他の事務を執るを例とするも重要な事項に付ては契員の協議を経ること財産處分の場合に異らず。而して契員は他の契員の承諾（過半数に依りて決するならんか）あるに非れば其持分を處分することを得ざるを本則とするも殖林、又は水利を目的とする契の如きは其山林、又は灌漑地の所有權に伴ひ其持分の移轉あるものとす。又契員は營利を目的とする契の他已むを得ざる事由あるに非ざれば恣に脱退することを得ず。又契員死亡の場合には相續人、之を承繼するものゝ如く又契員に不正の行爲あるときは過半数の決議を以て之を除名することを得るが如し。契の解散の原因に付ては慣習上判然定まれる所なきも、若し年限の定めるときは其年限の經過に因り。又一定の事業を目的とする場合には其事業の完成に因り若し又契員中解散を希望するものある場合には多數の意見により自ら解散を見るし、又契員が一人となりたるときは當然解散となること言ふを俟たず。而して解散の場合に於ける財産の分配は出資の額に依り又、利益の分配損失の負擔に付ても出資の額を標準とす。又契員脱退の場合に於いては出資の掛戻を爲すことを通例とす。」